第184回　中小企業景況調査（2026年4-6月期）　関東

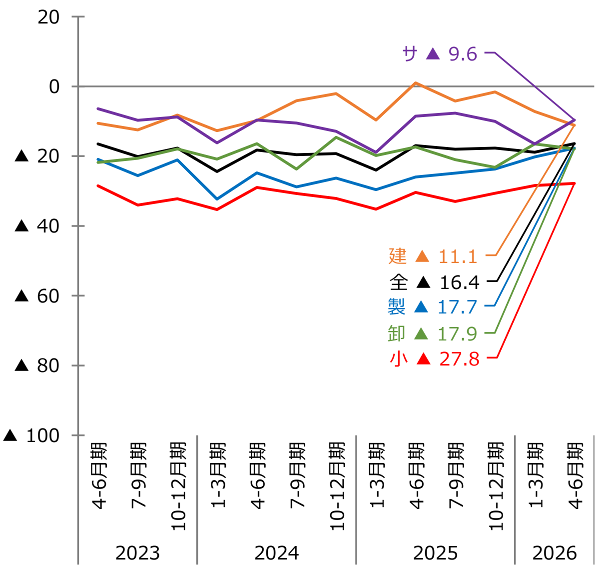
中小企業の価値を、日本の原動力に。
Be a Great Small. 中小機構

1．業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より2.5ポイント増の▲16.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、小売業で上昇し、建設業、卸売業で低下した。

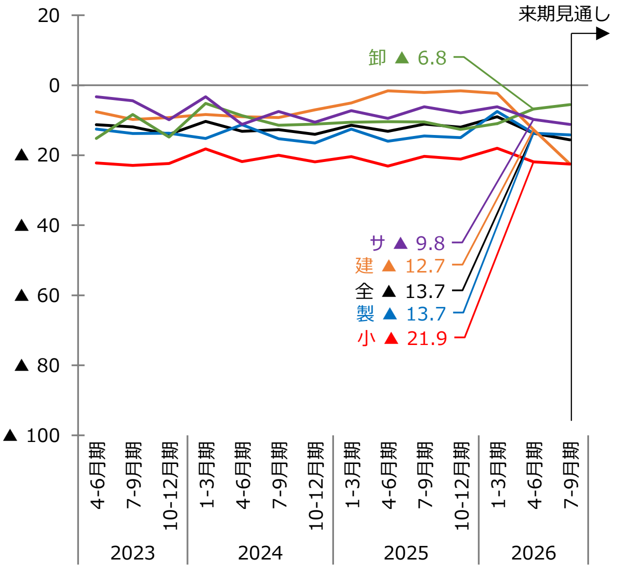
全産業　製造業　建設業　卸売業　小売業　サービス業

業況判断ＤＩ（今期の水準）



※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）

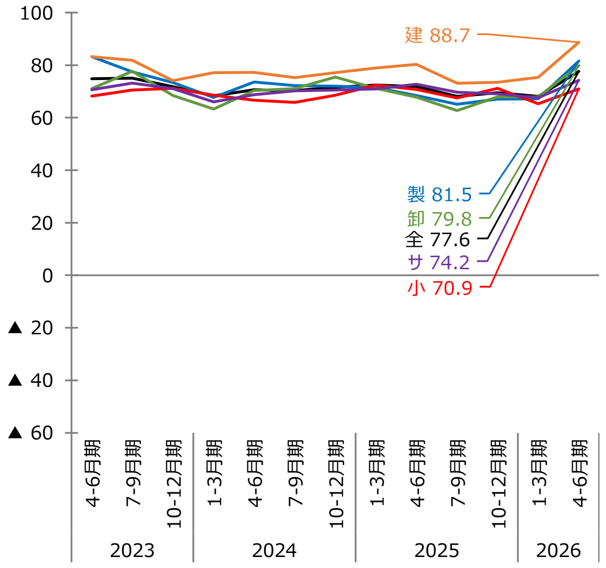


※前期（2026年1-3月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2．仕入単価･販売単価

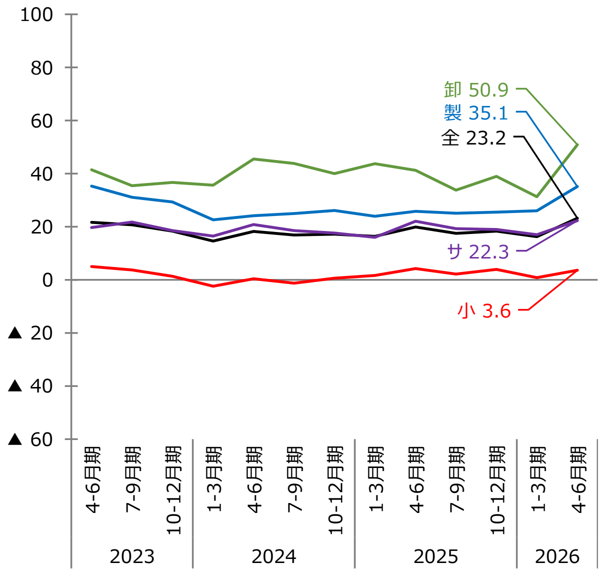
原材料･商品仕入単価DIは、全産業で前期より9.5ポイント増の77.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価･客単価DIは、全産業で前期より6.9ポイント増の23.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。

原材料･商品仕入単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

売上単価･客単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,834　有効回答企業数：17,734　有効回答率：94.2%　うち、関東：4,853企業

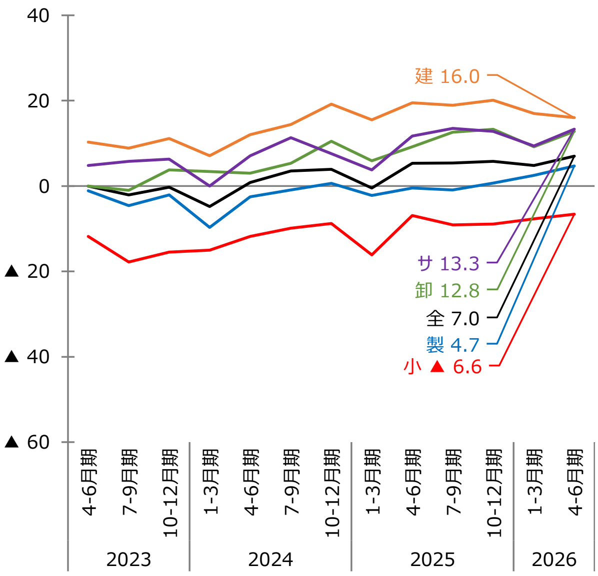
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第184回　中小企業景況調査（2026年4-6月期）　関東

３．採算

採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント増の7.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、卸売業、製造業、小売業で上昇し、建設業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

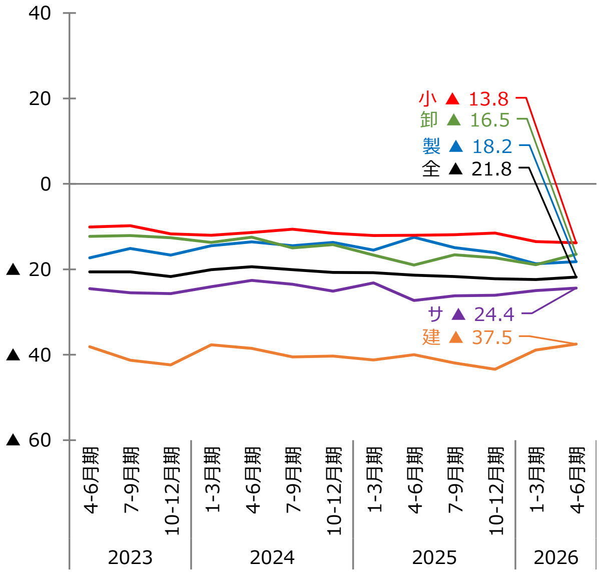


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の▲21.8と8期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

５．関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	半導体関連部品を中心に徐々に数量回復傾向にあり。しかし、銅材をはじめレアアース・非鉄金属、石油関連製品の入手難等による納期遅延、購入単価上昇で今後の企業活動に影響を及ぼす可能性大。	製造業	その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	内装材はプラスチック系が多いため材料価格の急上昇、品物によっては２か月入荷待ちの状況で工事の遅れが請求書締めに影響して入金が遅くなっている。	建設業	内装工事業
	ホルムズ海峡封鎖、ナフサの影響により、弊社取扱商品の供給が滞っている（ゴミ袋、食品容器、包装材料など）。５月以降、６月７月にかけ、ほぼ全商品値上げ。	卸売業	荒物卸売業
	ナフサの影響によるラベルや包材の値上げ、円安による肥料等の価格高騰で経費の増加が著しい。また、一般顧客の節約志向が徐々に高まっているように感じる。	小売業	他に分類されない飲食料品小売業
	生成ＡＩをはじめとする、ＤＸやＩＴ化の需要の高まりにより業績は良くなっている。一方、対応できる人材の確保や育成に課題がある。	ｻｰﾋﾞｽ業	情報提供サービス業
見通し	中東情勢による物資の影響が不明だが、影響が小さければデータセンター向けや、生産設備向けの需要は好調に推移すると予想している。ほかは大きな変動はないと予想しているため、全体的に好転するものと期待している。	製造業	金属製スプリング製造業
	材料費の急激な上昇に加え入荷遅延となり、利益が圧迫される中、客足が遠のき、先行きが不安定な状況。打開策を考えねばならない。	建設業	一般土木建築工事業
	今のところ新規案件も決定し、既存客の維持もできているが、お客様の倒産廃業が今後進行すると考えている。	卸売業	その他の衣服卸売業
	昨年秋に高値で仕入れたコメ在庫が重荷になる中、市場価額は下落し販売も低迷。資材費や運搬費などコストも上昇し、営業環境の厳しさは増加。今期の新米について、安価な仕入れは期待しづらく、先行き不安が大きい。	小売業	米穀類小売業
	ＡＩの急速な発達が、当社の顧客に影響があるか少し不安である。	ｻｰﾋﾞｽ業	情報提供サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)